

## 中国雲南省からのイネ導入品種の育種素材としての特徴

上原泰樹・伊藤延男・手塚隆久 (九州農業試験場)

Yasuki UEHARA, Nobuo ITOU and Takahisa TEZUKA : Characteristics of introduced rice varieties from Yunnan in China for breeding material

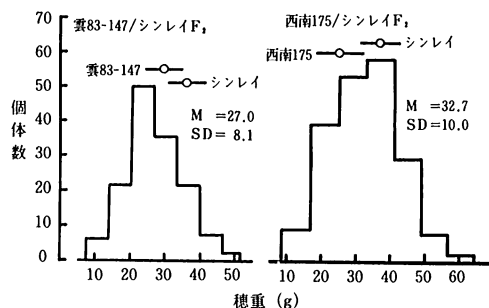
前報<sup>2)</sup>において1983年に中国雲南省から我が国に導入された品種の中から多収性の育種素材として2品種を選定したことを報告した。本報では、これらの品種と栽培品種との雑種集団を用い、導入品種の母本としての能力について検討した。

## 1. 材料及び方法

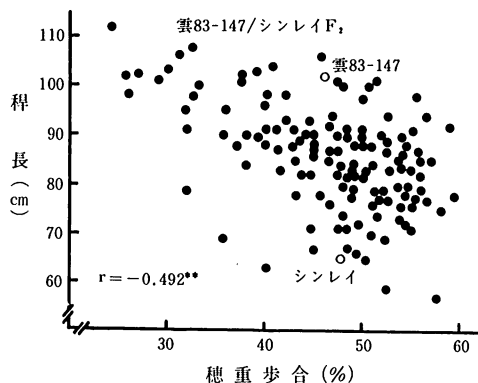
雲南省からの導入品種として雲83-147, 西南175の2品種を用い、これらの品種と栽培品種のシンレイとの雑種F<sub>2</sub>集団を用いた。試験は1986年に筑後市大字水田の農家圃場で行った。播種は5月21日, 移植は6月19日に行い, 栽植密度は30cm×15cm, 1株1本植えとした。栽培管理は農家の慣行法に従った。10月27日に刈取り, 乾燥後個体ごとに稈長, 穂長, 穂数, 株重, 穂重の各形質を調査した。また, 計算によって一穂重(穂重/穂数)及び穂重歩合(穂重/株重)を求めた。

## 2. 結果及び考察

両親及びF<sub>2</sub>集団における各形質の平均値を第1表に示した。導入品種の雲83-147及び西南175は長稈, 長穂で, 穂数が少ない穂重型の品種であり, シンレイは短稈, 穂数型品種である。F<sub>2</sub>集団では長稈, 穂長, 穂数の平均値は2組合せとも両親の平均値に近い値を示した。株重, 穂重については西南175/シンレイでは同様に両親の中間の平均値を示したが, 雲83-147/シンレイでは第1図に示したように穂重は軽い方に片寄った頻度分布を示し, 株重も同様な分布を示した。一穂重については雲83-147/シンレイでは軽い方に, 西南175では重い方に片寄った値を示した。穂重歩合の平均値については雲南83-147/シンレイでは両親の中間の値を示したが, 西南175/シンレイでは両親より高い値を示した。このように雑種集団の穂重に関する形質の頻度分布には片寄りが認められた。すなわち粒着密度が極く密粒である雲83-147<sup>1)</sup>を片親とした場合には一穂重が低下して穂重の軽い個体が多



第1図 穂重の頻度分布



第2図 稈長と穂重歩合との関係

くなる傾向が認められた。比較的粒着密度が疎粒で長穂の西南175<sup>1)</sup>を片親とした場合には一穂重が重く, 穂重歩合の高い個体が多く出現した。

次にこの分布の片寄りが雑種集団中の希望型個体の出現頻度にどのような影響があるかを検討した。希望型としては短稈で穂重が重く, 収穫指数の高い, 草型の良い個体である。本報では収穫指数に近いものとして穂重歩合を用い, 雲83-147/シンレイについて稈長と穂重歩合の関係を第2図に示した。両親質間には負の有意な相関が認められ, 稈長が70cm前後で穂重歩合が50%以上の個体も数個体認められた。西南175/シンレイについても同様であり, 希望型は低頻度であるが認められた。

以上から, 雑種集団は全般に長稈であるが, 集団中には低頻度ながら短稈で収穫指数の高い個体が認められた。

## 引用文献

- 1) 上原泰樹・伊藤延男・手塚隆久: 日作九支報, 53, 1-4, 1986.
- 2) 上原泰樹・伊藤延男・手塚隆久: 日作九支報, 54, 1-3, 1987.

第1表 各形質の平均値

交配組合せ 両親名	調査 個体数	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	株重 (g)	穂重 (g)	一穂重 (g)	穂重歩合 (%)
雲83-147/ シンレイF <sub>2</sub>	142	85.9	21.5	13.0	58.6	27.0	2.1	46.7
西南175/ シンレイF <sub>2</sub>	198	88.9	22.1	13.9	67.4	32.7	2.3	48.6
雲83-147	50	102.2	21.9	6.7	64.3	29.4	4.5	45.9
西南175	48	102.0	24.0	12.7	62.4	24.6	1.9	39.0
シンレイ	49	64.5	20.4	15.6	75.7	36.2	2.3	47.8